

年金積立 日本短期債券オープン <愛称 DC 日本短期債券オープン>

運用報告書（全体版）

第24期（決算日 2025年10月28日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申しあげます。

「年金積立 日本短期債券オープン」は、2025年10月28日に第24期の決算を行ないましたので、期中の運用状況をご報告申しあげます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申しあげます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／債券	
信託期間	2001年10月25日から原則無期限です。	
運用方針	主として「日本短期債券マザーファンド」受益証券に投資を行ない、「NOMURA-BPI総合短期」を上回る投資成果をめざして運用を行ないます。	
主要運用対象	年金積立 日本短期債券オープン	「日本短期債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	日本短期債券マザーファンド	わが国の短期公社債を主要投資対象とします。
組入制限	年金積立 日本短期債券オープン	株式への実質投資割合は、信託財産の総額の10%以下とします。 外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の総額の30%以下とします。
	日本短期債券マザーファンド	株式への投資は行ないません。 外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

<958379>

東京都港区赤坂九丁目7番1号

www.amova-am.com

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター

電話番号：0120-25-1404

午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

【運用報告書の表記について】

- 原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額				NOMURA-BPI総合短期 (ベンチマーク)	新株予約権付社債 (転換社債)組入比率	債券組入比率	純資産額
	(分配落)	税込分配	みなし金	期騰落率				
20期(2021年10月28日)	円 10,327	円 10	% △0.2	327.953	% △0.1	% —	% 94.8	百万円 848
21期(2022年10月28日)	10,294	10	△0.2	327.555	△0.1	—	94.5	727
22期(2023年10月30日)	10,260	0	△0.3	326.952	△0.2	—	96.7	633
23期(2024年10月28日)	10,222	0	△0.4	326.194	△0.2	—	92.5	580
24期(2025年10月28日)	10,208	0	△0.1	326.240	0.0	—	95.1	594

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「新株予約権付社債(転換社債)組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) NOMURA-BPI総合短期は、野村ファイデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社が公表している、わが国の債券市場の動きを示す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された債券ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。国債、地方債、政府保証債、金融債、事業債、円建外債、MBS、ABSなど、国内で発行された円建公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存期間1年以上3年未満、残存額面10億円以上で、事業債、円建外債、MBS、ABSについては、A格相当以上の格付を取得しているものに限られます。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		NOMURA-BPI総合短期 (ベンチマーク)	債券組入比率
	騰	落		
(期首) 2024年10月28日	円 10,222	% —	326.194	% — 92.5
10月末	10,226	0.0	326.351	0.0 92.3
11月末	10,204	△0.2	325.478	△0.2 98.2
12月末	10,212	△0.1	325.774	△0.1 98.5
2025年1月末	10,195	△0.3	325.157	△0.3 98.1
2月末	10,186	△0.4	324.860	△0.4 98.3
3月末	10,186	△0.4	324.924	△0.4 98.4
4月末	10,216	△0.1	326.145	△0.0 95.1
5月末	10,207	△0.1	325.907	△0.1 93.6
6月末	10,215	△0.1	326.332	0.0 93.7
7月末	10,206	△0.2	326.080	△0.0 93.2
8月末	10,203	△0.2	325.981	△0.1 93.6
9月末	10,196	△0.3	325.829	△0.1 95.0
(期末) 2025年10月28日	10,208	△0.1	326.240	0.0 95.1

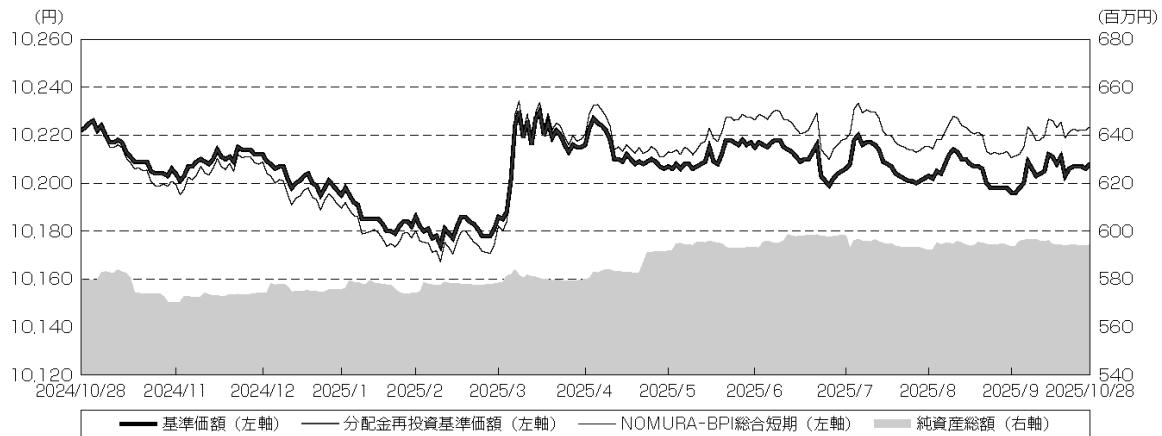
(注) 謄落率は期首比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

○運用経過

(2024年10月29日～2025年10月28日)

期中の基準価額等の推移



期 首 : 10,222円
 期 末 : 10,208円 (既払分配金(税込み) : 0円)
 謄 落 率 : △0.1% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびNOMURA-BPI総合短期は、期首(2024年10月28日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) NOMURA-BPI総合短期は当ファンドのベンチマークです。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主に、「日本短期債券マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・国債発行の減額を巡り財務省による2025年度の国債発行計画の見直し観測で需給悪化への懸念が和らいだこと。
- ・日銀が2025年6月の金融政策決定会合において政策金利の据え置きを決め、「主な意見」では追加利上げに慎重な姿勢を示したこと。

<値下がり要因>

- ・米国政権による追加関税の影響に備える財政拡張に伴ない国債増発への懸念が強まつたこと。
- ・日本と米国との関税交渉の妥結を受けて、対日関税が引き下げられ景気の悪化懸念が和らいだこと。
- ・石破首相の退陣表明を受け、財政拡張に積極姿勢を示す自民党と、財政の健全化をめざす歳出改革を訴える日本維新の会による連立政権が誕生し、バランスの取れた経済対策への期待から国内株式市場が上昇したこと。

投資環境

(国内債券市況)

国内債券市場では、国債発行の減額を巡り財務省による2025年度の国債発行計画の見直し観測で需給悪化への懸念が和らいだことや、日銀が2025年6月の金融政策決定会合において政策金利の据え置きを決め、「主な意見」では追加利上げに慎重な姿勢を示したことなどが利回りの低下(債券価格は上昇)要因となったものの、米国と中国が互いに課した追加関税の大幅な引き下げで合意したことや、米国政権による追加関税の影響に備える財政拡張に伴ない国債増発への懸念が強まつたこと、日本と米国との関税交渉の妥結を受けて、対日関税が引き下げられ景気の悪化懸念が和らいだこと、2025年4-6月期の実質国内総生産(GDP)速報値が市場予想を上回り、日本経済への見方が好転したこと、石破首相の退陣表明を受け、財政拡張に積極姿勢を示す自民党と、財政の健全化をめざす歳出改革を訴える日本維新の会による連立政権が誕生し、バランスの取れた経済対策への期待から国内株式市場が上昇したことなどを背景に、国債利回りは総じて上昇(債券価格は下落)しました。

当ファンドのポートフォリオ

(当ファンド)

当ファンドは、「日本短期債券マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。

(日本短期債券マザーファンド)

日米を中心とした金融政策動向や経済指標が示唆する景気動向などを睨みながら、デュレーション(金利感応度)を調整しました。期間の初め以降、日銀の利上げ局面を想定し、総じてデュレーションをベンチマーク対比やや短めで調整し、期間末にかけてはベンチマーク並みとしました。

当ファンドのベンチマークとの差異

期間中における基準価額は、0.1%の値下がりとなり、ベンチマークである「NOMURA-BPI総合短期」の上昇率0.0%を概ね0.2%下回りました。

ベンチマークとの差異における主な要因は以下の通りです。

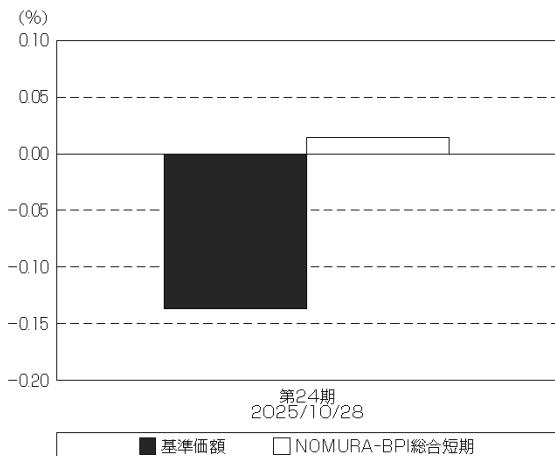
<プラス要因>

- ・総じてデュレーションをベンチマーク対比短めとしたこと。

<マイナス要因>

- ・非国債の保有比率をアンダーウェイトとしたこと。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) NOMURA-BPI総合短期は当ファンドのベンチマークです。

分配金

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第24期	
	2024年10月29日～ 2025年10月28日	
当期分配金 (対基準価額比率)	—	—%
当期の収益	—	
当期の収益以外	—	
翌期繰越分配対象額	885	

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの收益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「日本短期債券マザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。

(日本短期債券マザーファンド)

原則として、デュレーション戦略やイールド・カーブ戦略を機動的に変更することで、信託財産の安定した成長をめざします。国内では物価目標達成に向けた利上げ局面が継続し、短・中期金利は緩やかな上昇基調となることが見込まれます。日銀の金融政策変更のタイミングを注視しつつ、短期ゾーンの国債を中心とした運用を継続する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願ひ申しあげます。

○ 1万口当たりの費用明細

(2024年10月29日～2025年10月28日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 11	% 0.110	(a)信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	(3)	(0.030)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(7)	(0.069)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受託会社)	(1)	(0.011)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他の費用	0	0.004	(b)その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	11	0.114	
期中の平均基準価額は、10,204円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

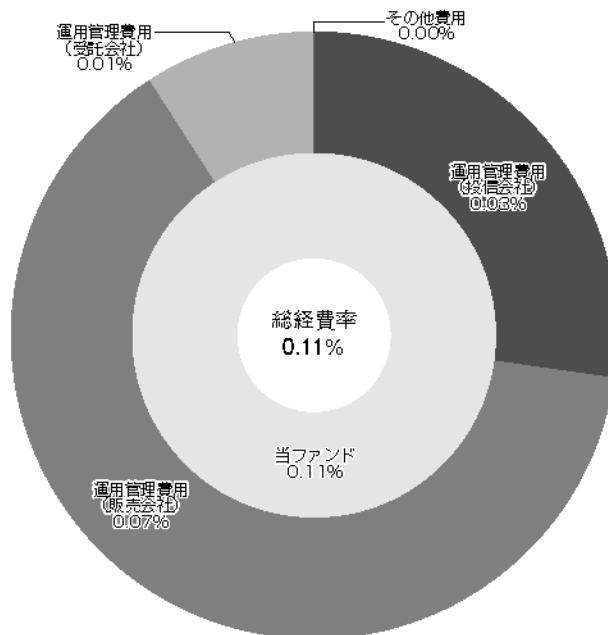
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)**○総経費率**

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.11%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 「その他費用」には保管費用が含まれる場合があります。なお、「その他費用」の内訳は「1万口当たりの費用明細」にてご確認いただけますが、期中の費用の総額と年率換算した値は一致しないことがあります。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2024年10月29日～2025年10月28日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定期		解約	
	口数	金額	口数	金額
日本短期債券マザーファンド	千口 43,456	千円 48,078	千口 29,790	千円 32,923

○利害関係人との取引状況等

(2024年10月29日～2025年10月28日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2024年10月29日～2025年10月28日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2024年10月29日～2025年10月28日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2025年10月28日現在)

親投資信託残高

銘柄	期首(前期末)		当期末	
	口数	口	数	評価額
日本短期債券マザーファンド	千口 520,052	千口 533,718	千円 591,306	千円 591,306

(注) 親投資信託の2025年10月28日現在の受益権総口数は、875,428千口です。

○投資信託財産の構成

(2025年10月28日現在)

項目	当期末		比率
	評価額	比	
日本短期債券マザーファンド	千円 591,306	% 99.3	
ユール・ローン等、その他	4,291		0.7
投資信託財産総額	595,597		100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年10月28日現在)

項目	当期末
(A) 資産	円 595,597,308
コール・ローン等	4,290,991
日本短期債券マザーファンド(評価額)	591,306,260
未収利息	57
(B) 負債	1,292,227
未払解約金	524,080
未払信託報酬	755,128
その他未払費用	13,019
(C) 純資産総額(A-B)	594,305,081
元本	582,216,658
次期繰越損益金	12,088,423
(D) 受益権総口数	582,216,658口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,208円

(注) 当ファンの期首元本額は567,420,891円、期中追加設定元本額は118,411,581円、期中一部解約元本額は103,615,814円で
す。

(注) 1口当たり純資産額は1,0208円です。

○損益の状況 (2024年10月29日～2025年10月28日)

項目	当期
(A) 配当等収益	円 17,342
受取利息	17,342
(B) 有価証券売買損益	496,858
売買益	625,326
売買損	△ 128,468
(C) 信託報酬等	△ 1,203,705
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 689,505
(E) 前期繰越損益金	△ 5,860,703
(F) 追加信託差損益金	18,638,631
(配当等相当額)	(51,547,389)
(売買損益相当額)	(△32,908,758)
(G) 計(D+E+F)	12,088,423
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	12,088,423
追加信託差損益金	18,638,631
(配当等相当額)	(51,552,842)
(売買損益相当額)	(△32,914,211)
繰越損益金	△ 6,550,208

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換算によるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程(2024年10月29日～2025年10月28日)は以下の通りです。

項目	2024年10月29日～ 2025年10月28日
a. 配当等収益(経費控除後)	0円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	51,552,842円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	0円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	51,552,842円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	885円
g. 分配金	0円

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税込み）	0円
----------------	----

○お知らせ

約款変更について

2024年10月29日から2025年10月28日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

- 東京証券取引所における取引終了時間が「午後3時」から「午後3時30分」に延伸されたことに伴ない、弊社が設定する証券投資信託の申込締切時間も同様に30分延伸することを原則とします。その例外として、当ファンドにおいては、適切な資産評価と事務処理を実施するため、申込締切時間を「午後3時」のままですることを規定すべく、2024年11月5日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（第11条、第47条、第49条）
- 当ファンドについて、運用報告書（全体版）は電磁的方法により提供する旨を定めている規定につき、投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に即した記載に変更するべく、2025年4月1日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（第57条の2）
- 当ファンドについて、委託会社である当社がその社名を「日興アセットマネジメント株式会社」から「アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社」に変更したため、2025年9月1日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（第1条、第16条）

当ファンドの主要投資対象先の直近の運用状況について、法令および諸規則に基づき、次ページ以降にご報告申しあげます。

日本短期債券マザーファンド

運用報告書

第26期（決算日 2025年10月28日）
(2024年10月29日～2025年10月28日)

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	1999年10月29日から原則無期限です。
運用方針	主としてわが国の短期公社債に投資を行ない、「NOMURA-BPI総合短期」の動きを上回る投資成果をめざして運用を行ないます。
主要運用対象	わが国の短期公社債を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行ないません。 外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。

ファンド概要

主としてわが国の短期公社債に投資を行ない、「NOMURA-BPI総合短期」（以下「ベンチマーク」といいます。）の動きを上回る投資成果をめざして運用を行ないます。

投資対象とする公社債は、原則としてその格付（格付が付与されていない場合は、委託者が当該格付と同等の信用度を有すると判断したものを用いるものとします。）が投資適格（B B B一格相当以上）のものとします。

公社債への投資にあたっては、主にデュレーション調整戦略、イールド・カーブ調整戦略、セクター・アロケーション戦略、クレジット戦略および銘柄選択などにより、ベンチマークに対する超過収益の獲得をめざします。

ただし、資金動向、市況動向の急激な変化が生じたときなどやむを得ない事情が発生した場合ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用ができない場合があります。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

<935719>

【運用報告書の表記について】

- 原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			NOMURA-BPI 総合短期		新株予約権付社債 (転換社債) 組入比率	債組入比率	純資産額
		期騰	中落率	期騰	中落率			
22期(2021年10月28日)	円 11,138	% △0.1		327.953	% △0.1	—	% 95.2	百万円 1,447
23期(2022年10月28日)	11,125	△0.1		327.555	△0.1	—	94.8	1,254
24期(2023年10月30日)	11,102	△0.2		326.952	△0.2	—	96.9	1,094
25期(2024年10月28日)	11,074	△0.3		326.194	△0.2	—	93.2	1,003
26期(2025年10月28日)	11,079	0.0		326.240	0.0	—	95.6	969

(注) NOMURA-BPI総合短期は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している、わが国の債券市場の動きを示す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された債券ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。国債、地方債、政府保証債、金融債、事業債、円建外債、MBS、ABSなど、国内で発行された円建公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存期間1年以上3年未満、残存額面10億円以上で、事業債、円建外債、MBS、ABSについては、A格相当以上の格付を取得しているものに限られます。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額			N O M U R A - B P I 総合短期		債組入比率
		騰	落率	(ベンチマーク)	騰落率	
(期首) 2024年10月28日	円 11,074	% —		326.194	% —	% 93.2
10月末	11,078	0.0		326.351	0.0	92.9
11月末	11,055	△0.2		325.478	△0.2	98.7
12月末	11,065	△0.1		325.774	△0.1	99.1
2025年1月末	11,047	△0.2		325.157	△0.3	98.8
2月末	11,038	△0.3		324.860	△0.4	98.9
3月末	11,039	△0.3		324.924	△0.4	98.8
4月末	11,075	0.0		326.145	△0.0	95.4
5月末	11,070	△0.0		325.907	△0.1	94.2
6月末	11,084	0.1		326.332	0.0	94.2
7月末	11,075	0.0		326.080	△0.0	93.6
8月末	11,072	△0.0		325.981	△0.1	93.9
9月末	11,066	△0.1		325.829	△0.1	95.5
(期末) 2025年10月28日	11,079	0.0		326.240	0.0	95.6

(注) 謄落率は期首比です。

○運用経過

(2024年10月29日～2025年10月28日)

基準価額の推移

期間の初め11,074円の基準価額は、期間末に11,079円となり、騰落率は+0.0%となりました。

基準価額の変動要因

期間中、基準価額に影響した主な要因は以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・国債発行の減額を巡り財務省による2025年度の国債発行計画の見直し観測で需給悪化への懸念が和らいだこと。
- ・日銀が2025年6月の金融政策決定会合において政策金利の据え置きを決め、「主な意見」では追加利上げに慎重な姿勢を示したこと。

<値下がり要因>

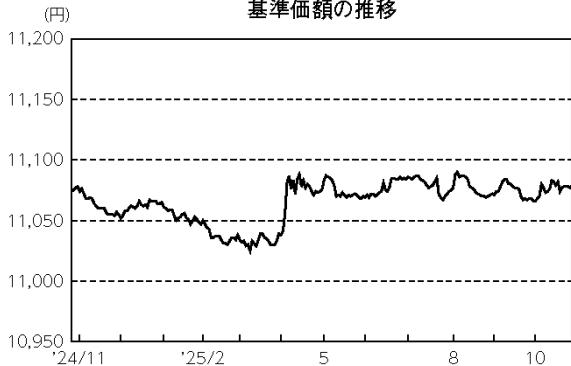
- ・米国政権による追加関税の影響に備える財政拡張に伴ない国債増発への懸念が強まったこと。
- ・日本と米国との関税交渉の妥結を受けて、対日関税が引き下げられ景気の悪化懸念が和らいだこと。
- ・石破首相の退陣表明を受け、財政拡張に積極姿勢を示す自民党と、財政の健全化をめざす歳出改革を訴える日本維新の会による連立政権が誕生し、バランスの取れた経済対策への期待から国内株式市場が上昇したこと。

(国内債券市況)

国内債券市場では、国債発行の減額を巡り財務省による2025年度の国債発行計画の見直し観測で需給悪化への懸念が和らいだことや、日銀が2025年6月

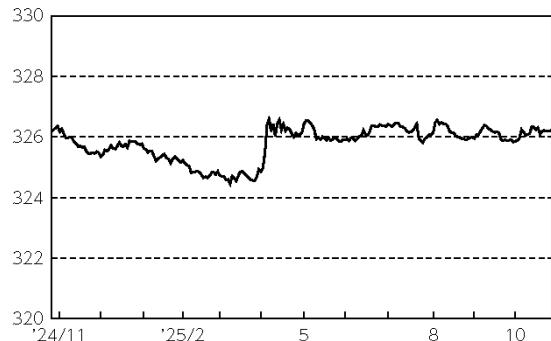
の金融政策決定会合において政策金利の据え置きを決め、「主な意見」では追加利上げに慎重な姿勢を示したことなどが利回りの低下（債券価格は上昇）要因となったものの、米国と中国が互いに課した追加関税の大幅な引き下げで合意したことや、米国政権による追加関税の影響に備える財政拡張に伴ない国債増発への懸念が強まること、日本と米国との関税交渉の妥結を受けて、対日関税が引き下げられ景気の悪化懸念が和らいだこと、2025年4～6月期の実質国内総生産（GDP）速報値が市場予想を上回り、日本経済への見方が好転したこと、石破首相の退陣表明を受け、財政拡張に積極姿勢を示す自民党と、財政の健全化をめざす歳出改革を

基準価額の推移



期 首	期中高値	期中安値	期 末
2024/10/28	2025/08/05	2025/03/10	2025/10/28
11,074円	11,090円	11,025円	11,079円

NOMURA-BPI総合短期の推移



訴える日本維新の会による連立政権が誕生し、バランスの取れた経済対策への期待から国内株式市場が上昇したことなどを背景に、国債利回りは総じて上昇（債券価格は下落）しました。

ポートフォリオ

日米を中心とした金融政策動向や経済指標が示唆する景気動向などを睨みながら、デュレーション（金利感応度）を調整しました。期間の初め以降、日銀の利上げ局面を想定し、総じてデュレーションをベンチマーク対比やや短めで調整し、期間末にかけてはベンチマーク並みとしました。

当ファンドのベンチマークとの差異

期間中における基準価額は、0.0%の値上がりとなり、ベンチマークである「NOMURA-BPI総合短期」の上昇率0.0%と概ね同水準となりました。

ベンチマークとの差異における主な要因は以下の通りです。

＜プラス要因＞

- ・総じてデュレーションをベンチマーク対比短めとしたこと。

＜マイナス要因＞

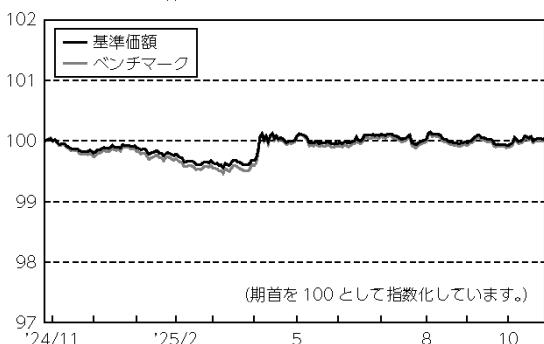
- ・非国債の保有比率をアンダーウェイトとしたこと。

○今後の運用方針

原則として、デュレーション戦略やイールド・カーブ戦略を機動的に変更することで、信託財産の安定した成長をめざします。国内では物価目標達成に向けた利上げ局面が継続し、短・中期金利は緩やかな上昇基調となることが見込まれます。日銀の金融政策変更のタイミングを注視しつつ、短期ゾーンの国債を中心とした運用を継続する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

基準価額とベンチマーク（指数化）の推移



○1万口当たりの費用明細

(2024年10月29日～2025年10月28日)

該当事項はございません。

○売買及び取引の状況

(2024年10月29日～2025年10月28日)

公社債

		買付額	売付額
国内	国債証券	千円	千円
		619,643	627,343

(注) 金額は受け渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

○利害関係人との取引状況等

(2024年10月29日～2025年10月28日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2024年10月29日～2025年10月28日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○組入資産の明細

(2025年10月28日現在)

国内公社債

(A) 国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区分	当期末						
	額面金額	評価額	組入比率	うちB格以下組入比率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	千円 920,000	千円 905,699	% 93.4	% —	% —	% 50.6	% 42.8
地方債証券	21,600 (21,600)	21,415 (21,415)	2.2 (2.2)	— (—)	— (—)	— (—)	2.2 (2.2)
合計	941,600 (21,600)	927,114 (21,415)	95.6 (2.2)	— (—)	— (—)	50.6 (—)	45.0 (2.2)

(注) ()内は非上場債で内書きです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B)国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘柄	当 期 末			
	利 率	額 面 金 額	評 働 額	償還年月日
国債証券	%	千円	千円	
第150回利付国債(5年)	0.005	110,000	109,034	2026/12/20
第151回利付国債(5年)	0.005	110,000	108,768	2027/3/20
第153回利付国債(5年)	0.005	100,000	98,592	2027/6/20
第154回利付国債(5年)	0.1	100,000	98,483	2027/9/20
第156回利付国債(5年)	0.2	150,000	147,684	2027/12/20
第157回利付国債(5年)	0.2	100,000	98,225	2028/3/20
第159回利付国債(5年)	0.1	150,000	146,601	2028/6/20
第163回利付国債(5年)	0.4	100,000	98,312	2028/9/20
小計		920,000	905,699	
地方債証券				
第414回大阪府公募公債(10年)	0.037	10,000	9,907	2026/11/27
平成28年度第5回福岡市公募公債	0.06	11,600	11,507	2026/10/28
小計		21,600	21,415	
合計		941,600	927,114	

○投資信託財産の構成

(2025年10月28日現在)

項目	当 期 末	
	評 働 額	比 率
公社債	千円 927,114	% 95.6
コール・ローン等、その他	42,763	4.4
投資信託財産総額	969,877	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年10月28日現在)

項目	当期末
(A) 資産	円
コレ・ローン等	969,877,158
公社債(評価額)	42,523,871
未収利息	927,114,416
前払費用	228,871
	10,000
(B) 負債	0
(C) 純資産総額(A-B)	969,877,158
元本	875,428,848
次期繰越損益金	94,448,310
(D) 受益権総口数	875,428,848口
1万口当たり基準価額(C/D)	11,079円

(注) 当ファンの期首元本額は906,484,173円、期中追加設定元本額は46,404,335円、期中一部解約元本額は77,459,660円です。

(注) 2025年10月28日現在の元本の内訳は以下の通りです。

・年金積立 日本短期債券オープン	533,718,080円
・日本短期債券マザーファンド(適格機関投資家向け)	341,710,768円

(注) 1口当たり純資産額は1,1079円です。

○損益の状況 (2024年10月29日～2025年10月28日)

項目	当期
(A) 配当等収益	円
受取利息	789,066
(B) 有価証券売買損益	△ 477,164
売買益	429,936
売買損	△ 907,100
(C) 当期損益金(A+B)	311,902
(D) 前期繰越損益金	97,350,637
(E) 追加信託差損益金	4,940,203
(F) 解約差損益金	△ 8,154,432
(G) 計(C+D+E+F)	94,448,310
次期繰越損益金(G)	94,448,310

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換算によるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○お知らせ

約款変更について

2024年10月29日から2025年10月28日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

- 当ファンについて、2025年9月1日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。
 - ①委託会社である当社がその社名を「日興アセットマネジメント株式会社」から「アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社」に変更いたしました。(第1条、第4条)
 - ②法定運用報告書の交付は行なわない旨を定めている規定につき、投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に即した記載に変更するべく、変更を行ないました。(第43条の3)